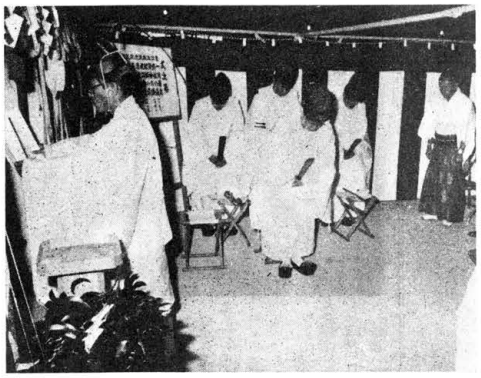
宗像
毎月十五日発行
発行所　宗像大社
宗像
福岡県宗像郡玄海町
電話 09106 ②1311代
定価　一年送料共 1000円

宗像大社神宝館建設
上棟祭斎行



当大社神宝館建設工事は昨秋着工以来、予定通り順調に進捗し、現在鉄筋コンクリート三階建の外観が県道沿いの神社の森越しに望まれるが、去る七月二日現場に於て上棟祭が厳かに斎行された。梅雨は未だ明けず前々日には二十年振りの豪雨に見舞われ、心労池は氾濫して多数の鯉が雌遊するという水害の後で天候が懸念されたが、当日は雨もあがり薄日も射して涼しく祭儀を行うことが出来た。

祭場は神宝館一階フロアーに注連縄を張り、紅白の幕を引き廻らし、祭場内は正面奥に鏡、扇事を飾った幣串を立て、その左方に破魔弓に破魔矢（鏑矢）を番えた「天の弓矢」を飾り、右方に破魔矢（雁股矢）を番えた「地の弓矢」を飾付け、また木の香も匂う檜板に墨痕鮮やかに書き記した棟札を立てかけて、場内には慶祝の瑞気が満ち満ちる。

午前十一時、宗像大社復興期成会出光佐三会長代理出光興産株式会社立川事務取締役を始め、宗像大社責任役員、福岡県神社庁浄見庁長、伊豆県議、郡内町村長、議長、伊藤建築設計事務所長、清水建設株式会社九州支店長、内山緑地建設株式会社内山社長等約四十名が参列する中を、斎主宇都宮祢宜以下七名の奉仕神職参進。修祓、降神、献饌と続き、新屋に禍なく幸あれかしと祝詞が奏上された。

次いで館内の邪気を払う古式豊かな鳴弦の儀が神職二名により行われ、清めの矢が天と地に向って三度放たれた。この後、館内の四隅より神職が散餅して悪なく清祓いの神事を終えた。

祭典終了後参列者一同は清水建設株式会社大神所長の案内で一、二、三階と館内を廻り説明を受けたが、想像以上に広い館内スペースに驚き、今後施される内装や展示設備、また換気、除湿、防音等の諸工事に深い関心を示し熱心に耳を傾けていた。

この後、勅使館饗膳所に於て直会の宴を催した。先ず幕津宮司より謝辞と今後の御協賛依頼の挨拶を申し上げ、次いで浄見庁長、清水建設株式会社寺沼支店長より祝辞を受け、伊豆県議の発声により乾杯を行い、和やかなうちに祝宴の一刻を過し、高橋玄海町長の音頭で万才を三唱し盛裡に宴を閉じ散会した。

神宝館は今後屋上部分に鉄骨を組立て屋根を葺き上げ、外壁の塗装工事により外観を整えると同時に内装、展示ケース、照明その他諸装置を設置し次第に完工を目指して諸工事が進められて行く予定である。

既報のとおり海の正倉院「宗像・沖ノ島」の報告書が刊行され超一級の学術書として学界の高い評価を受けているが、これに呼応して再び沖津宮神宝への関心が高まり当社への照会や宝物館見学者の数も増えているが、これら神宝類を一堂に展示し、一目瞭然その全貌を把握することの出来る神宝館の開設は多くの人々の待望するところであり、この期待にそうべく素晴しい神宝館を完成しなければと関係者一同意欲を燃やして事業達成に邁進している。

特別展開催
玄界灘
〝海への祈り〟
日時　七月二十九日から八月二十六日まで
場所　宗像大社宝物館
×　×
公開講演会
牧田　茂（民族学者）
永井　昌文（九大教授）
小田富士雄（考古学者）
日時　八月五日（日）
場所　電気ビル別館六階
主催　宗像大社
朝日新聞社
後援　福岡県教育委員会
福岡市教育委員会
KBC九州朝日放送

神具、装束
結婚式場用品
株式会社　井筒
九州店　福岡市博多区東公園二ノ三一（〒八一三）電話福岡（九二）六五一―九四五六番
本社　京都市下京区油小路六条北入（〒六〇〇）電話京都（〇七五）三二一―二三四一代）～四番
三二一―二三四四・六〇六番

論説
家庭教育ポイントと観られる老婆心

旧国名を薩摩と呼んだ鹿児島県には、温厚篤実な隼人を養育する女性の伝統精神が今日なお生きている。日立たない老婆心の繊細な教育ポイントを接触した三の家庭に、感銘浅からぬものを得たのである。その例証を引きつつ家庭教育に於ける老婆心の重要な役割を、教育学というような難しい課題でなく考えてみた。

平素家庭での子弟教育いわゆる躾は、主婦の責務となっている。昔から当然の分担として伝承されてきたが、これはわが国に限ったことではなく、諸外国でもその風習は変らないようである。然し、交通情報文化の国際的接触も詳密となってゆく傾向強くなるにつれ、互に影響し合う趨勢は否定できないのである。

その影響による著しい変化を昨今の中国に観る。毛沢東をリーダーとする革命は、中国の国民を緊張の連続帯におき、戦時日本を思わせる国民服に労働強化の一途を辿って、一切の旧慣厳封新態勢順守が強制された。革命政治に専従する者は容赦なく断され、その減員者も数百万と言われる程の数字を他国の報道機関は挙げていた。

四人組追放後のニュー中国は、押しかぶせる近代の風が四人組時代の九億の民衆を凡ゆる面に一変させたのである。人民の生活は一口に言えば「オシャレ解禁」や「セックス解放」の壁新聞が表現している。

必要と思う参考事例を引いたが、この辺で本旨に入らねばならない。老婆心も亦筆者の身辺に観る事例がその主旨となる。

老婆心の母御を扱った主人公は、近所に住む若い医科大学出身の学究。最近結婚した鹿児島を郷里とする医師の卵である。郷里の薩摩から、独身時代は勿論、昨今も母堂が時折出てきて暫時逗留して、美しい程の親子の愛情を温め、香気を残して帰る。滞在中に暗黙がいなかったことが、それを何かと愛児の前途に、幸福をもたらすような置き土産を遺る。それも若い嫁が居る折頃は遠慮がちの風を装かす「人は城なり」の伝統を負いて、明君はよき落士の育成に努めたのである。多数の秀れた人物を輩出して、幕末明治の大事業を翼賛した業績が、明君傑士の国柄を示した。

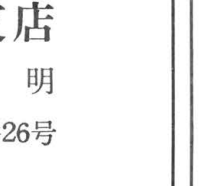
次に、これもまことに風変りな一芸能人の人生哲学「つじつま」を紹介しておきたい。喜劇俳優の渥美清がその人である。彼は画やテレビでしきりに活躍しているが、そのつじつま論を雑誌に載せていた。

「私は貧しい家に生れて、殊に幼少年時代は苦労の連続であった。その為に知ったのが、つじつまは世の場合でも必ず合うということである。雨天があれば晴天が来る。苦労を重ねると、次に安楽が巡る。その反対に怠ける幸いに合って、つじつまは離れない。私はこれに確信をもっている」

彼のつじつま論は、別段難しい知識人ぶった所はないが、平易な素直な物事の考え方が滲められていて、読む者の微笑を誘う。学者の高邁な理論よりも、尊さを感じさせる。

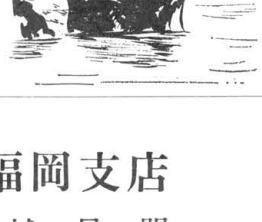
母性愛に発した老婆心が、俳優のつじつま論にまで及んだが、決してつまぬ理屈と思いたくない。人間は誰しも、その住む環境や携わる仕事によって、それぞれの立場に応じた心の動きがある。高級も下級もなく、よく頑張れば血となり肉となる。それが家庭教育のポイントとも言えるのである。急速に変化してゆく世相、明日の日本について種々の予測も意見も出るが、どれが果して明日の世界、将来の日本となるかは難しい問題である。優れた政治家教育者の高邁な意見といえども当るは限らない。

（白鷺）



阿蒙少言

名剣わが身を斬る。芝居狂言によく見る鈴木主水、村正の比類なき名刀を帯びている自信が、武士道の鉄石心を保持するなら、名刀を持つ資格があるわけだが、自信過剰や己惚れとなり果ては他を軽んじたりするとなると大変。剣は人なりの禅道は、鈍刀でよい、それで十魂は養える●現代は利鈍を問わず一剣を持たぬこと勿論だが、せち辛い世の中を生きるサムライ達は、心に剣を握っている。昔の高僧なら粗末な笏杖を旅路の道伴れとし、剣はおろか金銭も寸鉄も身につけていない。貧しい旅姿、それが最も弱いようで最も強かったのである●学業を卒えると、役所勤めか会社の安サラになって人生を踏み出すが常識。毎日同じ慣れた職場でも、仕事の面で甚だしい変化はなくとも所信感情は変化を常識とする。昇も難しくて厄介なのが人対人の関係で、でもない風に過していても大事はそこにある●いわゆる人事が職場を倒き易くもし、企業全般の成果向上にも連なるとなると、人員の配置組合せもおろそかにはできない。人事面を擔う部課長など、その才幹に期待をかける時高幹部もあろう。戦国の雄者、信長秀吉家康の三将の性格、殊に愛憎を明確に人事に打出した点、しばしば批判を聞くところである●信長「鳴かざれば殺してしまえ時鳥」は本能寺の変に際ける宿命を負っていた。秀吉「鳴かざれば鳴かしてみよう時鳥」は派手な一代の英傑を見せた。家康「鳴かざれば鳴くまで待たう時鳥」は焦らず急がず、重き荷を負って遠路を行く人生観が幕府三百年の基礎を固めさせた●企業に於ても、人事異動で社内が驚く変調も起る。自慢れが野心を培い欲望に走らせる。他の欠点を拾って忠義顔する。みな功者に見えて実は低劣●名剣を欲しがってはならない。心に鞭一本用意めされよ。

暑中御見舞申し上げます

出光興産株式会社福岡支店
支店長　許斐城見明
福岡市中央区大名2丁目8番26号
出光
出光興産株式会社門司支店
支店長　松山嘉三
北九州市門司区錦町3番7号

学術報告書「宗像・沖ノ島」出版祝賀会

― 東京・福岡両会場にて開催 ―

既報のとおり学術報告書「宗像・沖ノ島」が上梓刊行されたが、この出版祝賀会が東京、福岡の両市でそれぞれ開催された。

東京では六月十三日午後六時から帝国ホテル鶴ノ間で催されたが、特に三笠宮殿下の御臨席を忝うし、宗像大社復興期成会、沖ノ島調査隊員、考古学者、文化人、報道関係者等約七十名が参集した。葦津宮司の挨拶に続き第三次沖ノ島調査隊長岡崎敬九大教授の調査概要、報告書刊行の経緯等の報告がなされたが、特記すべきは三笠宮殿下より御言葉を賜わったことで、戦前戦後の激動する社会状勢の中で終始変わらぬ敬神の赤誠を捧げ、沖ノ島調査、更に報告書刊行という大事業を民間人の手で遂行された宗像大社復興期成会長出光佐三氏に対する讃辞と、玄界灘の孤島という苛酷な自然条件の中で発掘調査に従事した調査隊員にねぎらいの言葉を寄せられ、参会者一同深い感銘を受けた。

会場には宗像大社復興期成会刊行の宗像神社史上下附巻、宗像大社昭和造営誌、沖ノ島、続沖ノ島に加えて今回の宗像・沖ノ島を展示、また沖ノ島の発掘状況写真パネルを掲げたが参会者は会食（立食）の合い間にこれら資料を熱心に見入っていた。

福岡では六月十六日午後六時から西鉄グランドホテル真珠の間で催され亀井知事外約七十名が参集したが、特に地元だけに調査隊関係の方達が多く、当時の思い出を懐かしく語り合う隊員の姿があちこちで見られた。

東京会場で行なった葦津宮司の挨拶は次のとおりである。

本日は宗像沖ノ島の出版報告の御案内を申し上げましたところ、三笠宮崇仁親王殿下を始め各界各層の御関係の方々の御臨席を承わり厚く御礼申上げます。御承知の通り宗像大社は古き神代の昔、皇祖天照大神より格別に御神勅を奉戴せられてお降りになられた極めて由緒あるお社であります、その高貴なる由緒を明らかにすると共に宗像大社の御神徳の発揚を決意されて、昭和十七年に出光佐三氏は宗像大社復興期成会を結成されたのであります。以後戦前戦後を通じその活動は休むことなく続けられ、社史の編纂、復興用地の買収、沖ノ島の学術調査、昭和の大造営と次々に事業を進められ今日を迎えたわけでありますが、特に今回の宗像沖ノ島報告書の出版は、その掉尾を飾るものであります。沖ノ島は玄界灘の絶海の孤島であり、その調査につきましては大変な御苦労があったわけでありますが、その御苦労も今になってみれば調査に御参加下さいました皆様方の終生忘れ難い想出の一頁になっておられるのではないかと思います。特に昭和四十四年十月十一日第三次調査の折には三笠宮崇仁親王殿下の現地御参加を仰ぎ沖津宮の御参拝を賜わりましたことは、大社史上特筆すべきことであり私の深く感謝とするところであります。今回本書の出版につきましては第三次沖ノ島学術調査団の隊長をお引受け下さった九州大学の岡崎教授を始め、御関係の方々の血と汗の結晶によって出来上ったものであります。昭和四十四年の第三次調査から数えますと実に十年の才月を要したわけで、当時若者であった阿久井さん佐田さん弓場さん達を始め若手隊員の皆様方は貴重な青春時代の総てを沖ノ島に捧げたといっても過言ではないと思います。まさにこの出版は斯界の大事業であり斯界第一級の書物であると確信しております。それと同時にこの十年間には本書出版のために莫大な費用を要しましたが、それらは総て出光興産株式会社が快く御負担下さり、その御好意に対しましても本席をお借り致しまして厚く御礼申上ぐる次第であります。また出光美術館の末松館長代理を始め館員の皆様には調査から本書の出版に至る迄永い間並々ならぬ御高配を承り、宗像大社復興期成会長出光佐三氏の意を体して有終の美を飾って下さいました事を心より感謝申上げます。しかし昭和二十九年第一次調査以来熱心に御参加御指導下さった出光泰亮団長、また松見守道副隊長が他界され本席にお姿を見ることが出来ないのは残念でなりません。両氏の御冥福を心よりお祈り申上げます。最後になりましたが本日御参会下さいました皆様方の各方面からなる御支援に対しまして厚く御礼を申上げますと共に今後共益々宗像大社の御神徳発揚の為に尚一層の御協賛を賜りますよう御願い申し上げまして御挨拶を終らせていただきます。

（写真は東京会場祝賀会）

沖ノ島祭祀遺跡学術調査団解団式

― 辺津宮本殿に於て斎行 ―

六月十六日に、沖ノ島祭祀遺跡学術調査団の解団式が執り行なわれた。午后二時辺津宮本殿において、岡崎敬九大教授、末松良介出光美術館々長代理他関係者十名参列、楠本祢宜斎主のもと祭典は厳粛裡に斎行された。引き続き午后六時より、西鉄グランドホテルにて報告書刊行祝賀会が催された。会場には、地元福岡を中心とした学界、政財界の主もだった七十余名の人々が参集され、二時間に亘り和気合々と懇談が続き盛大であった。

第三次調査団は、沖津宮古代祭祀のあり方を研究し、その古儀を復興する資料を得ることを目的として、宗像大社復興期成会の内に調査団を編成したものである。故出光泰亮氏を団長に、調査隊長には岡崎敬九州大学教授があたられ、九州大学考古学研究室、出光美術館、鹿島建設株式会社を主体にして調査隊を構成して、昭和四十四年四月から昭和四十六年五月まで数度に渡り調査を行い、龍頭・雛形鴟尾琴、奈良三彩小壷と豪華で貴重な資料、古代祭祀形態の確立と学界に夥しい成果をもたらし、宗像大神の神徳を汎く世に識らしめて調査を終了した。

今次調査に関し、文化庁、福岡県教育委員会、日本考古学協会各位の方々が種々に渡り、御助成下さいましたことを心から感謝申し上げます。

昭和五十三年度 会計監査・責任役員会開催

去る六月十六日午前十時から当大社斎館に於いて、責任役員会（同月二十二日午前十時）に先だち、昭和五十三年度歳入歳出の会計監査が、当大社々費と氏子々費とに分けられ、夫々別室で厳正に行われた。その結果、両方共に、書類・帳簿等に異状なく結構であると承認され、署名捺印を戴いた。

社費の監査は、中村清之・立石昇・河野幸人の三氏（当大社責任役員）と、氏子々費の方は、黒石雅資（玄海）・吉田寿夫（宗像）・脇野十郎（福間）・谷口勇（津屋崎）四氏の氏子会監事に依って行われた。

昭和五十四年度責任役員会は、当大社斎館に於いて開催された。

当日は、中村清之・立石昇・河野幸人・広島萬吉以上四氏の責任役員・代表役員葦津嘉之（当大社宮司）と各担当職員八名出席の下で進行された。

先づ開催に当り葦津宮司の挨拶・社頭近況・本年度の方針等の説明が行われ、引続き議題審議に入った。尚、先に行われた会計監査の結果報告が、河野幸人役員から述べられ一同了承。各項目別に順次詳細に審議がなされ、決算並びに諸案件は原案の通り承認可決された。

残筆しがらみ草紙

玄陽隠士 (31)

狸親父

自分の父がどんなに不細工な顔であっても、狸親父と評する者はあるまい。若し、その仏頂面が気に入らなくて狸親父と言うなら、自分はその狸の生んだ子だから豆狸になる。親父は老人の意味で、広く狡猾な老人であれば、みな該当者にされる。

史上の人物批評にはよく使われ、徳川家康悪評の代名詞となっている。戦国乱世を生き抜いたつわものは誰でも狸親父に当らない者はいまい。

弱肉強食の乱世に温良正直は通用しない。猜疑、駆引、豹変、寝返りの渦巻く困難苦境、好人物と賞められては生き残れぬ。まして野人なら兎も角、多数の家の子郎党その縁類の生活や安否を考えてやらねばならぬ頭領の地位では、時によっては狸どころか鬼にも蛇にもなる覚悟がいる。

家康の場合、秀吉なき後に落日の弱体化に同情する人たちが、大坂城攻撃に採った作戦を嫌って狸親父にした。秀吉だって名もなき野人の倅から、幸運も手伝って天下人になった人物、狸どころではなかった。その外を見渡しても大狸小狸の群雄が割拠していたのである。誰か烏の雌雄を知らむとの結論となる。

わが国の史上ばかりでない。お隣中国の昔にも、春秋戦国時代があった。まさに麻の如く乱れた世相の中に、王道も覇道もない。優れた武力と、長けた才智とが勝利者を造り盛代を築き上げたのである。易世革命の本場の中国、現代も革命の旗色は強い。人心これに集って団結する。

欧州、中東、東南アジヤといずこも狸や狐の活躍があったのであるが、動物学者の観察では狐も狸も細心で正直、とても妖怪の類ではない、むしろ人間から騙されて憂き目をみる。然し、中国の昔から狐狸妖怪と使われてきたので習慣に従い、狸親父をわが国では通用させる。特に政界財界には少くない。昨今では教育界にも油断のならぬ狸が現れはじめ、医科歯科のある大学では賄賂や詐術が火を吹いている。

ある大学の先生に狸親父があった。いつどんな理由でこのニックネームが奉られたか、今の学生は知らない。先輩達が話の中で出すから、知ってしまって理由もわからず使う。その方が通りがよい。ところでこのニックネームをいつか当の先生が知っていた。腹も立てない、嫌な呼称とも思っていない風である。どんな事を言っても平気の平左だから、狸親父が発生したのかも知れない。

講義の対象たる文学部の学生には、この頃女性が多くなった。狸先生は講義中、自分の話に自ら興味を沸かして脱線、とんでもない冗談になったり、落語まがいの笑い草に落ちたりすることもある。狸親父の発生源はその辺にあるのかも知れない。

青春期の女子学生はよく笑う。殊に講義の脱線を喜んで笑う傾向がある。

「若くてしとやかなまじめ顔の女性を、虫も殺さぬ顔と言うが、近来は牛も殺さぬと変った。女性が強くなって、虫どころではない牛までは殺さぬ顔と訂正になった次第」と。女子学生はとたんに一斉に吹き出した。女子学生もニックネーム狸親父は知っているが、あまり学生間の会話には出さない。大和撫子はやはりしとやかで牛までは殺さない。狸親父に対して年を取った大和撫子を狸婆とする昔話がある。これも老婆をののしる意味が含まれての称で、男女とも老いて狸寝入でも上手になった頃は録な扱いはされない。

「えと」には狸も狐も仲間に入れてもらえなかった。獰猛な虎、うす気味悪い蛇、ともに堂々たるえとメンバーであるのに、こちらははずされている。易学や繊維説で干支から除外されたからには、どうにもならない。狐は稲荷の神使として霊妙な活動をなすとされ、稲荷さんの境内では幅がきく。人間が神使の狐を不可思議な霊物として拝んだりする。狸は神や仏に縁が遠い。

動物学の専門家がいかに気の小さい正直者と保証してくれても、とても浮かび上る機会はない。満月照らす野原に独り寝そべって、思いきり腹鼓でも打ってうさばらしとゆくことにする外ない。

毫毛は毛筆の材料として重用されているが、毛皮は婦人の防寒用に登場する。殊に美貌の襟首にぶら下れば文句なし。

暑中御見舞申し上げます

福岡相互銀行

日の里支店
支店長　河野宣彦
宗像町日の里一丁目二九－八
TEL（〇九四〇三）⑥六七六七

古賀支店
支店長　古賀信仁
古賀町大字古賀字後牟田三九四
TEL（〇九二九四）②三六三六

福岡銀行

宗像支店
支店長　江頭工
宗像町東郷九二六－一
TEL（〇九四〇三）⑥二〇一七

福間支店
支店長　島本建二
福間町二七二六－五
TEL（〇九四〇四）②一二四六

西日本相互銀行

自由ケ丘支店
支店長　石松昇
宗像町自由ケ丘二丁目七－六
TEL（〇九四〇三）③五一五一

日の里支店
支店長　北崎学
宗像町日の里一丁目三六－一〇四
TEL（〇九四〇三）⑥二八八一

福間支店
支店長　石松鷹威
福間町大和町二七三三
TEL（〇九四〇四）②一二三一

福岡県大会初の完全優勝

郷土のホープ　東海大五高柔道部

山田士之夫

最近急速な郷土の発展に伴い、それを象徴するかのように各方面で目覚ましい活躍が見られる。福岡全県下高等学校柔道試合で完全制覇した東海大五高は宗像町田久松ケ浦に開校して十年目に当る。六月二十四日、県下柔道対抗試合で伝統の南筑、大濠、柳商他嘉穂の俊秀を相手に二年連続優勝、別に体重別二階級も全部優勝して二十四年来大会初の完全制覇を成し遂げ大会に雄然たる記録をうちたてた。今年も全国大会出場で、全国制覇の夢を大きくふくらませている。同部では目下水島監督、森山顧問の厳しい指導の下に溌剌たる青春の汗を吹きとばせている。七月七日にはハワイから四世の彼の地高校柔道部員が日本高校チャンピオンの胸を借りて本場の稽古をと二泊三日間の猛稽古を受けて帰国した。

去る四月一日の日本武道館での試合は地域代表の強豪四十高校のチームが参集して行われたが東海五高は左の成績であった。

写真はフクニチ新聞社提供

津屋崎中学校　女子陸上部　四〇〇メートル・リレーで　五十一・五秒の　県新記録で優勝

—津屋崎町—

去る五月六日、平和台陸上競技場で開催された。福岡選抜朝日陸上競技大会で津屋崎中学校女子陸上部が四〇〇メートル・リレーに於いて県新記録の五十一・五秒の素晴しい成績で優勝しました。

メンバーは、大峰千秋・花田雅子・柴田敏江・上妻也寸余さんの三年生四人であります。今回の記録更新は実に十四年（旧タイムは昭和四十一年、五十一・六秒）振りの快挙であります。

このチームは今年四月二十九日、久留米陸上競技大会（久留米市）に於いてチーム最高の五十二・四秒で優勝、雲平杯を獲得、又、五月三日、県陸上競技記録会（北九州市）では歴代二位に当る五十一・七秒（本年度県最高）の好記録をマーク、着々と地力をつけ、各大会毎に記録を伸ばしています。

今大会に於いても、関係者の間では優勝候補の一番手に挙げられていたが、その期待に見事に答えしかも県新記録で優勝されたのであります。

津屋崎中学校女子陸上部四〇〇メートル・リレーチームの栄誉を称えますと共に今後益々の活躍をお祈り致します。

小・中学校　体育館落成式　併て大島村　自治功労者推奨式

古川俊枝氏
船越虎之助氏
屋形繁人氏
推奨を授く

—大島村—

新装なった大島村立小・中学校体育館に於いて去る四月十四日、落成式並に大島村自治功労者推奨式が村民多数参列のもと盛大に執り行なわれた。

小・中学校体育館建設は大島村民挙げて永年の悲願であった。大島村では早期建設の必要性は痛感していたが、村財政の実情から延々になっていた、昨年三月村議会に於いて建設着工が承認されたが、総事業費が村財政の三分の一以上を要するため、中村国美祢村長を始め村議会並に関係者に於いて財源の確保に尽力し、ここに総面積一〇五五㎡、コート面積八〇五㎡の鉄筋コンクリート造の堂々たる体育館が完成、村民挙げての奉祝行事が執り行なわれた。

又、この落成式に併せて、大島村自治功労者推奨式も行なわれた。この自治功労者推奨は「大島村自治功労者推奨条例」に基づいて授与されたもので、今回は古川俊枝・船越虎之助・屋形繁人各氏が栄ある自治功労推奨者として、中村村長より推奨状を授与された。

尚、現在まで自治功労推奨を受けられている方々は次の通りであります。

大島俊基氏、遠藤列太郎氏、遠藤春市氏、河野篤壮氏、遠藤久一郎氏、里口順一氏、山口節郎氏、里口新一氏、遠藤俊熊氏、本田弘治氏　以上一〇名

町の話題

（各町々報より抜萃編集）

町民球技大会開催

第六回　バレーボール
第三回　卓球
第二回　軟式庭球

—玄海町—

玄海町球技大会が、去る五月二十七日（日曜日）、玄海中学校体育館・卓球場、町営運動広場テニスコートに於いて、バレーボール、卓球、軟式庭球の三部門で熱戦が展開された。

バレーボール大会は今回で第六回大会となり、各地区単位の編成で九ブロック（九チーム）が参加してA・Bパートに別れリーグ戦を行い、一位による決勝戦が行なわれ、田野チームが見事三年連続の優勝を果した。尚成績は次の通りです。

（Aパート）
上中（二勝）、山ノ上・吉田、千代川・北町、湊・段天（以上一勝一敗）、池田（二敗）

（Bパート）
田野（二勝）、多礼・田島、神ノ原・江口（以上一勝一敗）、祓川・上八（二敗）

（決勝）
田野　2—0　上中

—◇—◇—

卓球大会は第三回大会を迎え、町内の腕自慢、愛好家多数が参加して激戦を繰り広げた。成績は次の通りです。

（一般男子）
優勝　溝上秀夫
二位　松本英昭

（一般女子）
優勝　中野智子
二位　七田真理子

以上敬称略

—◇—◇—

庭球大会は昨年町営テニスコートが完成したのを期して開催され本年で二回目を迎えた。町内テニス愛好家がこの大会を目指し、猛練習を積み試合に参加、白熱した好プレーが随所に見られ応援者の拍手が盛んであった。尚試合はダブルスで行なわれ成績は次の通りです。

敬称略

優勝　桑野勇・小林登男チーム
二位　小野田守・灘辺勝チーム
三位　小林佐四郎・小野田守哉チーム

第三六回　宗像大社歌会詠草

毎月一日〆切　詠草到着順

津屋崎　内田久美
亡き兄の霊前に持帰られし南極の石今はその友も逝きましぬ

吉留　高山信子
幼き日見なれし葵よ亡母と共にふるさとの家浮び来るなり

原町　八波五月
残さるるも残して逝くも辛からむ長寿桜の鉢夫と買ふ

八幡西　安川浄生
一勢に港いでゆく漁船の発動機音山にこだます

宮田　片山一
雷鳴の暫くありて雨降らず暑さまさりて夕暮となる

武丸　原田まつ代
縁側のカーテン揺らすそよ風に机に寄れる白髪吹かるる

宗像　中村幸
日本を懐しみ渡り来るといふかっての駐留米兵のこと

福間　廣渡一寿軒
照りかげる木洩れ陽に映え古き墓苔の匂いにいにしえを偲ぶ

名古屋　野崎傅三
落葉松の林出づれば朝宮に浮きたちて見ゆ赤き裏富士

田熊　吉田直志
手がけたる皐月の盆栽三とせ径て花はくれない燃えるがに咲く

須恵　早川フサ
みまかりし友もあるなりこの集い年も二十を数える程に

田熊　今村重刀
「日本刀」吟ずとステージに上りたり老いわれの声おのづかするる

箱崎　吉村三郎
海遠く夕陽は沈む雲の間に後光射しいる島の陵線

田熊　鷲津かつ代
ひもすがら雨雲ひくく垂れこめてなまなまと栗の花穂はにほふ

福岡　吉田信夫
花嫁はばらを抱きて先に立ち新夫の重き荷を顧みず

田久　橋本良輔
信号に人一斉に渡りゆくおもひおもひの歩みなしつつ

東郷　藤崎辰子
二人して昼までかかり掘り上げたる大葉槙の根に菰を巻き付く

田久　立花勇雄
頑張れよと天の声する水田に金肥撒きつぐ老農夫吾に

戸畑　田中ハツセ
橋けたをかこむタイヤにつきし貝波の間に間に白く光れり

香椎　桜井ツ子
蕨つむ野にかげろふの低くたち遠き呼び出しマイクが響く

津丸　藤田肇
雨注ぐ菖蒲の花の紫を貴人の愛でし色と青ふ

田久　小方実
群生のせいたか泡立草の生きいきと路傍に見えつつ初夏に入る

曲　天野トモエ
この二十年クラス会誌の編集にわが一筆を欠かさず送る

津屋崎　谷口礼子
すひかずら咲ける岩陰乳房押ふ亡きたり子の幼顔うかび

田島　吉武武雄
名児山は若葉に映えてさわやかに朝のしじまにほととぎすの啼く

田熊　力丸一郎
友逝きていまだに残るまなうらに君がさいごの涅槃のすがた

田島　中野節子
溝川を狭めてしげる藻のひまを目高並びて上りつつあり

田島　楠理
玄海の波濤を越へて詣いる身わ冷たき禊ぎも男の冥利

池田　永富臻
落人の部落に近く墓石の読めざるまでに文字は弊へき

徳重　石松や寿子
大雨のたびに溢れし名残川護岸工事の成りて安けし

武丸　立石ろせ乃
庚申塚の台座に猫のねむれるをおこすことなく通り過ぎたり

暑中御見舞申し上げます

正金相互銀行
自由ケ丘支店
支店長　内迫敏晴
宗像町自由ケ丘五-九七五-一一
TEL（〇九四〇三）③三三二一

宗像農業協同組合
組合長　花田隆
宗像町大字東郷六七—一
TEL（〇九四〇三）⑥四一一〇

宗像信用組合
理事長　髙橋信種
宗像町大字東郷九四四—一四
TEL（〇九四〇三）⑥二一五二

遠賀信用金庫
宗像支店
支店長　井上勝善
宗像町土穴
TEL（〇九四〇三）②三一〇四
福間支店
支店長　横田哲雄
福間町津丸
TEL（〇九四〇四）②二一二三

宗像大社歌会 俳句作品集（一九八）

福岡西　入江　柳江
梅雨三日誰も来ぬ日のつづきけり

福　間　木梨よしの
梅雨空に誇らしく咲くクレマチス

名古屋　野崎　傅三
梅雨晴れや阿蘇の神山近づけり

福　間　廣渡一寿軒
ぼうふ添え母持ちくれし奈多浅蜊

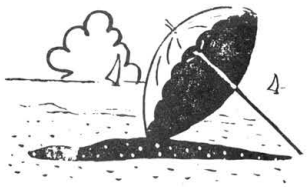
田　熊　安部　ゆき
初なりのトマトいとしみ掌に載せて

土　穴　八尋　恒夫
梅雨に入り漏らざる屋根がしみ出しぬ

田　島　吉武　武雄
早苗饗に山桃ちぎり懐しき

田　熊　力丸　一郎
散策に早苗田渡る風すがし

藤　沢　玄　洋　子
梅雨霽れて街に神輿の昨日今日



浜の寄物

軍艦出雲―ある巡洋艦の生涯（三）

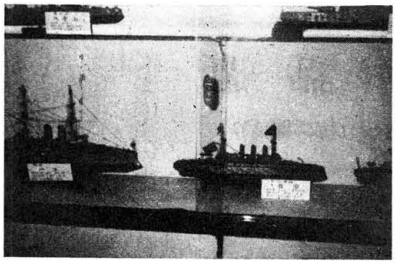
いしいただし

(23)

日露戦争の経過については略すが、ただ軍艦出雲を中心とする動きのみを追っていきたい。

芦屋浜の小高い丘のうえに、〝常陸丸殉難勇士の碑〟というのが建っている。建立は昭和一八年のことであるからそう古いものではない。明治三七年六月一五日、広島から朝鮮の釜山へ向っていた常陸丸（須知中佐の近衛後備連隊乗船）と佐渡丸は、芦屋沖西北八海里の海域を航行中ロシアの浦塩（うらじお）艦隊の砲火を受けて沈没した。そして芦屋の海岸へ常陸丸のものが漂着したのである。

ロシア太平洋艦隊は朝鮮の仁川支隊、浦塩艦隊、旅順艦隊があった。仁川支隊は日露戦争二日前に全滅しているが、主力は旅順艦隊そして装甲巡洋艦の浦塩艦隊であった。特に浦塩艦隊のロシア、グロンボイ（一万二千トン）、リューリック（一万トン）は、朝鮮海峡から東京湾伊豆、更に津軽へと広範囲に神出鬼没の行動をし、先述した二船の他に金州丸をはじめ総数十三隻を撃沈している。この浦塩艦隊を追跡しているのが上村第二艦隊の出雲、吾妻、磐手、常磐の装甲巡洋艦である。



上村艦隊の懸命の索敵にもかかわらずなかなか浦塩艦隊を捕捉することができなかった。そのために国民の中から批難がおこり、上村邸に投石や罵倒をあびせたり、露探艦隊と呼ばれたりしたという。

当時の福岡日日新聞（現西日本新聞）の七月の記事を見ても国民が露艦の動きに神経をとがらせていたか、そのことをよく察することができる。

明治三七年七月三日
露艦の出現、上村艦隊の行動
七月五日、露艦の再襲来、再び浦塩艦隊の玄洋に襲来しるにつき或る確実なる筋より聞くところによれば―
七月六日、敵艦隊追跡公報、
上村司会長官公報に曰く―
七月一二日、露艦と対馬海峡
七月一五日、露艦又々北海に現わる。
七月二三日、浦塩艦隊の行衛
七月二六日、浦塩艦隊の横行
浦塩艦隊の踪跡
七月二八日、浦塩艦隊の消息
七月二九日、浦塩艦隊の所在
八月六日、浦塩艦隊の公報
露艦らしき者

という具合である。

八月一四日ついに上村隊は朝鮮の蔚山沖で浦塩艦隊を捕捉した。この時の海戦は、まずリューリックが舷機を、更に艦長以下幹部全員が戦死という直撃を受け、やがて沈没、他の二艦は四回も反転して、リューリックを救援しようとして大打撃を受けている。（註1）「司令官エッセン少将の報告によれば、開戦後五時間で両艦の使える主砲は三門だけとなり、将校は半分戦死、全部の死傷者は四四二名を算し、有効被弾二七個、砲員はほとんど全滅して完全に戦闘力を失った」という状態であったが、機関には損害はなく、一九ノット半の速力で浦塩方面へ逃げた。対する日本艦も砲弾を打ちつくし、二艦を撃沈するには至らず、上村長官は黒板をけってくやしがったという。八月一六日、福岡日日新聞ではリューリック沈没の模様を次のように報じている。（註2）

註1 大海軍を想う伊藤正徳、文芸春秋社刊
註2 福岡県立図書館蔵より、一五日には蔚山沖海戦勝利の号外がでている。

鐘崎民俗誌 その十五

楠本記

釣漁（その二）

「くわしいことはありませんばってん、私のやっていたことばお話しましょう。」と前おきをして権田定六さんは口を開いた。

「私がこまい時からの話をいたしますと、尋常小学校は私共の時から義務教育になりましたが家が苦しくて妹を背負って学校に行きましたが、時々背中で泣き出すので勉強に身が入りません。そこで先生が時化の時にこいと言いますが、次第に行く気がせんようになって三年と少し行ってやめました。釣はこまい漁でキスゴ・クサビ釣が専門でした。五尺肩の四間くらいの和船でそれに家族（両親兄）が乗り地ノ島の周囲で漁をしました。その頃、鐘崎では十五隻から二十隻くらいの舟が釣をやっていました。キスゴ、クサビ釣は梅雨明けから十月頃までが最盛期で、照りあがらな、よけいに食いません。

冬になればブリ釣をやっていました。私は小さいから行けませんでしたが、コギノー（漕縄）とかヒキノー（挽縄）とも言います。餌にはサンマとか大羽イワシをつけていました。その頃は擬似餌はまったくやっていませんでした。これを使いだしたのは最近のことです。海面に鳥がたかると追風の時は帆をかけて行きます。風のない時は櫓を漕いでいました。櫓を漕ぐ時は肩に道具をかたげて釣をします。魚が大きいから食えば肩にひびきます。魚信があれば櫓をやめてクルわけです。

私が十四才の時、御飯炊きに行って三貫匁くらいの大ブリを釣りました。その時は魚がバタバタして釣りあげられませんので、父親が長さ一米ほどのヒッカケカギでとりあげました。ヒッカケカギは海の中を泳ぎまわるブリとり専門のカギです。これは現在も使っています。これを持たん人は大きなタボですくい上げていました。

沖ノ島までブリ釣りに行ったのは私のうちが一軒だけでした。父親と親類の人と三人で行っていました。

その后打ち込みというのが流行りましたが、そう遠いことではありません。この漁法はカナギを半殺しにして撒餌として釣る方法です。しかし、これでは沖ノ島のように五十も六十（ヒロ）もたつ所では仲々底にいきかねます。そこで此頃では道具に網をつけその中に撒餌のカナギをいれ、底につけばひっくりかえって餌をまく仕掛にしました。三年ほど前に玄海島の人から習ったそうです。この式を底撒きとよんでいます。だいたい魚は底にすみ着いているものですから、これでヒラスとかタイとかブリをとっています。

挽縄の図　福岡県漁業誌より転載

専門の漁師と素人がちがうのは手捌きがちがう点です。魚が多い時にそれがすぐ解ります。釣るのが速い、はずすのが速い、餌つけが速いといったふうです。大体三倍くらいの相違があります。それからカンです。

釣だけは上手と下手とでは莫大なちがいがあります。釣はグッチョ（競走）で、決して他人にやることはありません、何と言っても生活がかかっていますから、小さい時から網漁ばかりで育った人が網漁が悪くなって釣を始めても、ぜんぜん釣れません。それで鐘崎では〈大網育ちは犬も食わん〉と昔から言います。

道具のことですか、スジは昔、天然スジを使っていました。行商人が品物が軽かったせいでしょうか、大層スジを持ってきていました。戦争中は人造というのが流行っていました。これは弱いスジでした。今はナイロンスジです。ミチ糸には生糸をよったのを使っていました。これを使わんことなってから三十年にもなりましょうか、生糸を糸車でねり合わせてよって作ります。それを何回も何回もシブにつけて固めます。それから麻緒をだいぶ使いました。そのちが紡績糸です。生糸―麻―紡績―ナイロンとなります。

ナイロンで悪いのはパーマになってよれるのが欠点です。まっったナイロンは切って捨てます。

釣針は全部手打ちでした。ノー（延縄漁）をやる人はヤスリで針をといでいたものです。

獲った魚は夕方から馬車につんで飯塚・直方方面へ夜通しかかって運んでいました。浜焼きもしていました。氷ができてからは、舟に氷を積みこんで漁に出ましたが和船の頃はスイタですので、角氷が半分くらいに溶けていました。大正くらいになり船がデッキ張りになってから氷のもちが大分よくなりました。

鐘崎は他所とちがい漁師の数は少し増えていますが、魚は自然とへってきました。昔は魚はなんぼとっても減らんものと言われたものです。機械船になったり、考えても見たことのない魚探が発明されたので当然でしょう」

暑中御見舞申し上げます

玄海国定公園の中心……白砂青松の海水浴場……宗像大社からバス五分……神湊旅館組合

あけぼの荘　電話 玄海②二二六六番
魚屋旅館　電話 玄海②二一二二番
みなと荘　電話 玄海②二二五五番
玄海旅館　電話 玄海②〇〇〇一番
高嘉旅館　電話 玄海②一二二一番
千成旅館　電話 玄海②〇三〇〇番
望波亭　電話 玄海②一八一一番
千鳥荘　電話 玄海②〇〇六八番
大島屋旅館　電話 玄海②〇五五五番
喜楽旅館　電話 玄海②〇三三三番
松風荘　電話 玄海②一〇一四番
友楽旅館　電話 玄海②〇二四四番
泉館旅館　電話 玄海②〇〇三五番
玄洋荘　電話 玄海②二一七二番
川口屋旅館　電話 玄海②〇〇四八番
勝浦荘　電話 玄海②二四七一番
はま荘　電話 玄海②〇五〇〇番